

2023 年度 第 75 回研究大会

P.13 ~ 19 講演 私のこれまでこれから 永井 逯一 参照画像









生徒作品（3年生）今を生きる私へより「私の過去と未来」（鉛筆・水彩）



生徒作品（3年生）自分へ贈る卒業記念品より「家の文鳥」（木材・アクリル絵の具）



卒業式立体ポスター 大阪府立箕面東高等学校



芸術祭美術展・書道展 DM 大阪府立三島高等学校



芸術祭美術展会場風景 大阪府立三島高等学校

## 2023年度 第75回研究大会

# 「これまでこれから」— ありがとう沓掛 —

京都市立芸術大学は、昭和55（1980）年に、それまで美術学部は今熊野、音楽学部は岡崎と別々の地にあった両学部を一つのキャンパスとして現在の西京区大枝沓掛に移転し、教育研究活動に取り組んできました。移転から40年以上が経過する中で、施設・設備の老朽化や狭隘化、建物の耐震性、バリアフリーの問題など各種の課題が顕在化したことから、これらの課題を解消するため、京都駅東部への全面移転計画を進めています。その移転も、いよいよ令和5（2023）年10月に迫ってきました。

さらに、コロナ禍の3年間は緊急事態宣言のもと各学校での一斉臨時休校やリモート授業など、よりよい教育活動に向けて手探りで取り組みを進めてきました。折しも、2023年度は新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行するなど、その規制緩和後の枠組みへの準備や対応策など、学校現場でも新たな一步を踏み出すことになりそうです。

このような節目の年、京都市立芸術大学美術教育研究会は、「これまで これから」をテーマとして研究大会を開催することとしました。

### ○講演 私のもこれまでこれから 永井 遼一

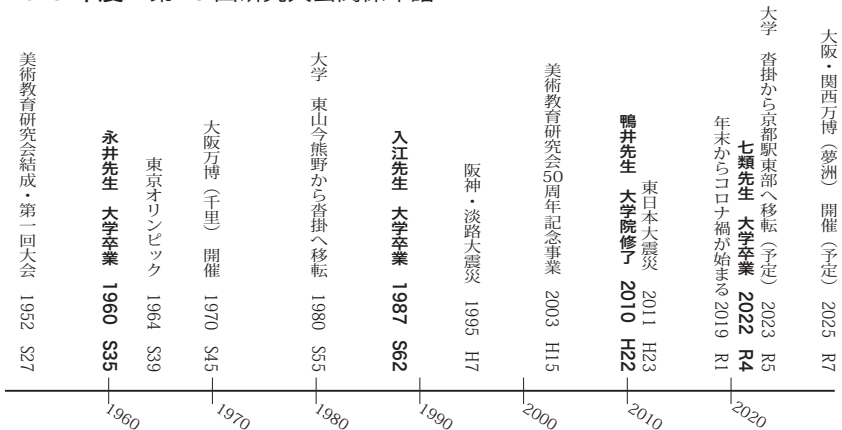
昭和12年12月2日	大阪市生まれ
昭和35年3月	京都市立美術大学 西洋画科卒業
昭和35年4月	神戸市立中学校教諭
昭和39年3月	小学校教諭 市教委指導主事 中学校教頭
平成4年から平成10年	小学校校長
平成7年1月7日	阪神・淡路大震災に遭う
平成10年	退職 市立幼稚園長（嘱託） 「誕生児の絵」を描き始める
平成15年	園田女子大学付属学が丘幼稚園長
平成20年5月	「永井流絵画教室」
平成30年3月	退職

週に2日位 幼稚園へ出かけて「誕生児」を観察して描く いつまで続くか？

○代表発表

- 1 私の授業 これまでとこれから 入江 映子  
 大阪府出身  
 1987年 京都市立芸術大学 美術学部 工芸科染織専攻 卒業  
 1994年 北海道に移住後、十勝の中学校に勤務  
 現 在 帯広市立緑園中学校 教諭
- 2 私のこれまでとこれから 鴨井 陽香  
 2010年 成安造形大学造形学部日本画コース卒業  
 2012年 京都市立芸術大学 大学院美術研究科修士課程 修了  
 2012年～2020年 大阪府立箕面東高等学校  
 2020年～現在 大阪府立三島高等学校  
 現 在 大阪府立三島高等学校 教諭
- 3 私の美術教育の これまで これから 七類 図南  
 2017年 銅駝美術工芸高等学校 卒業  
 2021年 上賀茂神社アートプロジェクト 出品  
 2022年 京都市立芸術大学 美術学部 美術科日本画専攻 卒業  
 2022年 双線美術展 出品  
 現 在 京都芸術高等学校・京都外大西高等学校 講師

2023年度 第75回研究大会関係年譜



# 私のこれまでこれから

永井 逕一

---

## 1 図工専科教員として「永井流絵画教室」

### 【永井語録】

- 絵画表現はコピーとは別もんです。
- 絵の具の単色利用（チューブから出したままの色）は色が薄っぺらい。  
「バック塗りましょう」は禁句。あえて言うなら「ここ何。」くらい
- 顔の表情だけで絵を描くのは難しいですわ。
- 表現とは、見たり、思い出したり、考えたりの繰り返し。現物を途中で見て確かめることも大いに認めてやってほしい。
- 絵を描くことにしんどさを感じると、漫画に逃げるよ。
- 色塗り、色付けではなく、「色で描かせる。」ぐらいに思っって。
- 時間がありすぎるのは、考えもん。
- 完成度が高すぎるのも考えもん。
- 一人一人の体験が表現できたらええんちゃうか。
- 着彩とは質感の追求。布の赤とりんごの赤の違いが表れているか…といったこと。  
時間やりすぎると、どこもかしこもこてこてに塗りよる。  
ぴっちり隙間なく塗れたら終わりと言う考えはやめたほうがええんちゃうか。
- 「絵の具の描き残しに、美あり。」ということですよ。
- 「ここは、こうせい。」は言わん方がよろしい。
- 画面から天候、季節、風、暑さ、寒さ、香りが感じられるような絵はよろしいな。
- 絵を描かせる上での支援とはその子とその作品について話をすることやないかな。  
(例)「これ、何しとん」で一人1分でもしゃべれたら、それはよい支援になる。
- 感じを表すことが心情表現。

## 【質疑応答・指導助言？】

## ■ 仲良し（特別支援学級）

- ・造形活動は、手と材料で何かをしていくこと。様々な経験を提供するようにしたい。ちぎる、切る、線を描く、塗るなどがそうである。長い不織布をつかって長く描かせるなどはよい手法だ。
- ・例えば「長い線を描こう」という造形遊びは、遊びと訓練の両要素を含む。楽しく遊びながら、表現の方法を体得していける内容を考えていくとよいだろう。

## ■ 1年

Q 線描きに偏って絵が平板だ。

A 低学年では、面が認識できるまでは線描きが主流。早い子でも面の認識ができるのが1年生の後半。それまでは線描きに偏るし、それが当然。しっかり、線遊びをさせたい。完成度は追求しない。

Q すぐに、かけたと言ってくる子がいて困る。

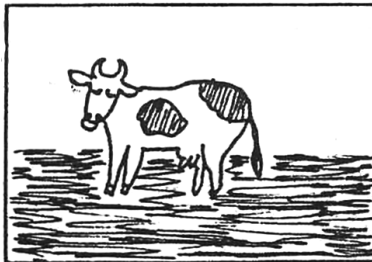
A まず、どんどん問いかけてやるとよい。「ここ、もうちょいいけるで。」「これだれや。」「耳や鼻はどこ。」「もっと、毛ないのん。」等である。ただし、指示は禁物。また、着彩は描いた対象にしっかり色がついていけばよい。周囲は薄くてもよい。要するに、指導者が意識を変えるということ。

Q 着彩の時にかけるよい言葉は。

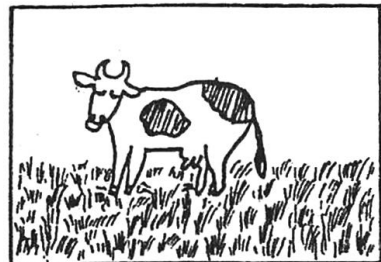
A 塗るのではなく、その色で、描くことが大切。感じが出ていたら褒める。「これ、水の感じがでとうわ。」等。草地の表現1つ、とって「塗ること」と「描くこと」との違いは明確にわかる。

(例) 草の表現……同じ緑のパス1本を使って描いても…

意識せず、作業になっている  
緑を塗っただけの絵。



意識して、表現を試みて  
草地を描いている絵





Q 絵が稚拙でパスで黒く汚れる。

A 生活体験の描写は難しい。題材を選ぶべき。稚拙に見えても仕方がないが、一つでも光るところがあれば褒め、認め、よくできたと解釈したい。要するに教師側の見方を変えること。また、色の濁りは気にしないこと。輪郭に色がまたがっても良い。なぜなら、塗り絵ではなく表現活動なのだから。

Q ぶつぶつ言いながら描く子はどうするとよいのか。

A 自分自身と他の児童への活動の中断にならない限り、呟きは大切にしておくこと。

## ■ 2年

Q クレパスと水彩の関係について。

A パス→絵の具でも、絵の具→パスのいずれでもよい。下描きの次は着彩という順序に固定観念を持たないこと。

Q 画面に空間が多い

A 画面の中の構成要素は互いにつながりがあることが大切。空間を無理に埋めていくのは、子供にとってはしんどいことである。要するに、見方を考えること。あるいは、描く対象を明確にしてから、それらが中心に据えられるよう画面構成を見てやる。

<悪い例>

「この子の絵隙間が多いな。」→「ここに、何かあったやろ。」と言った言葉では子供は沈黙し、指示により仕方なく空間を埋める。

(例) 下左の上は「わたし」と「友達」と「虫」とで構成されている。だが、下手に指示すると、右下のようによそよそしい壁などを描いてしまい、焦点がぼやける。



Q 低学年に絵を描かせるにあたって留意すべきこと、評価のポイントは何か。

A 以下のことを最初に示し、それに沿って評価するとよい。

<ねらい>

① 内容について……描きたい事は何であるか。また、どんな対象(私)を見つけたか。

② 造形要素について…ゆっくりした線で描いているか。

グニャグニャした線で描いているか。

主役と二番手を意識して描いたか。

③ 描画素材（絵の具、パス）の用い方

絵の具は2種類ぐらいは混ぜているか「肌色なしで、人の顔の色を作ろう。」などの声かけも1つの手段。

④ 画面から読み取れる感じ。何をしているか、わかるか。感じが出ているか。

※ これらについて共感しながら見てやることが大切

### ■3年

Q 3年生の絵を見るとき観点は。

A この時期、児童は主観的な表現から、客観的な表現へと移行し、空間を気にし始める。また、画用紙を枠として捉えることで描画に制約を受けてしまう。

(例) アンバランスな人物が生じるわけ

まず、顔を描く →

帳尻を合わせようとして  
体が小さくなってしまふ。



対策としては「概念つぶし」が有効。以下、指導、助言の例

「手や足から描いてみよか。」

「はみ出してもええで。」(画用紙を次出しても良い)

※ でっかい人物が必ずしも良いとは言えない。

※ 「大きくのびのびを」モットーに。

Q 着彩上の留意点は。

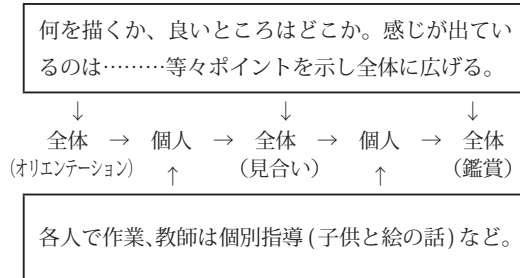
A ベタ塗りは、一部の例外を除き、対象の感じが出難い。

色で対象を描いていくことが大切。

## ■ 4 年

Q 作品を仕上げている中で息切れしてしまう。表現が停滞してしまわないようにするには。

A 自分の表現を確かめる手段を取り入れて対処する。以下の方法もその一つ。単一の作業を長く続けないこと。



Q 鑑賞についてよい方法は。

A まず、「自分の作品について語る。」と言うことが大切である。方法としては「○○の上にラブレターを出そう。」と呼びかけるのも良い。(もちろん、自分の絵に対しても) また、作品の名札には、その作品のコメントを添えること。そして、鑑賞するときには、そのコメントを是非読んでから感想を持たせるなり、書かせるなりしたい。

Q 絵の題材はどう決めたらよいのか。

A 少なくとも、「○○を描きたい。」と、言葉で表現することができる範囲に決定するのが妥当だ。

## ■ 5 年

Q 写生をさせるとき留意することは。

A まず、ものをしっかり見せることが大切。たとえ、実物とは違っていても、リアルさを追求し、リアルな表現へのアプローチがあれば良い。

見る→考え、思う→見て確かめ →描く、と言うプロセスがある。見たことを自分で消化していく過程が大切。また、「どこで。」と言う場所を強調しすぎると人物が小さくなっていき、それと引き換えに周囲の様子を表す面積が多くなっていく傾向がある。

Q 絵の終わりはどこ。

A ぴっちり、画面全てに色が着けば終わりと言うことではない。指導者が自分の主観に縛られないことが大切。面倒さによる放棄、中断を考えていかなければ、子供が「ここで終わった。」と言うところで終えてもよいのではないだろうか。

## ■6年

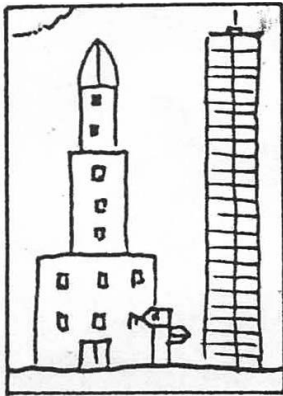
Q 風景画を描くとき、構図の決め方等の留意点は。

A まず、絵になる場所、構図といったものが存在する。あえて言うならば、視点をずらすとでもいうような 風景の切り取り方がある。画用紙の枠と平行な線だけで構成されていると、面白みに欠ける。その他には以下の点が挙げられる。

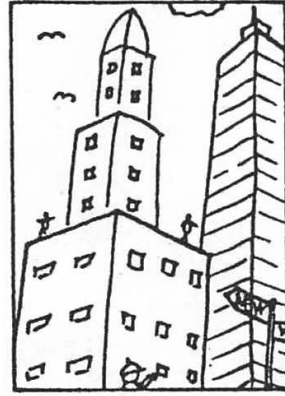
- ・ 題名がつきやすい風景 (画) か
- ・ 建物は上から下に向かって描く
- ・ 絵の中心になるものが明確にあるか。
- ・ 画面の中に、生き物、人物があると潤いがある、面白みのある作品になる。
- ・ 子供がスケッチをしてきたものを添削してやるのもよい。構図を見つけるのは難しいし、個人差が大きいから。

(例)

上記の点を踏まえず水平線と垂直線だけで構成された絵



上記の内容を踏まえ、ムーブメントの感じられる構成で描いた絵



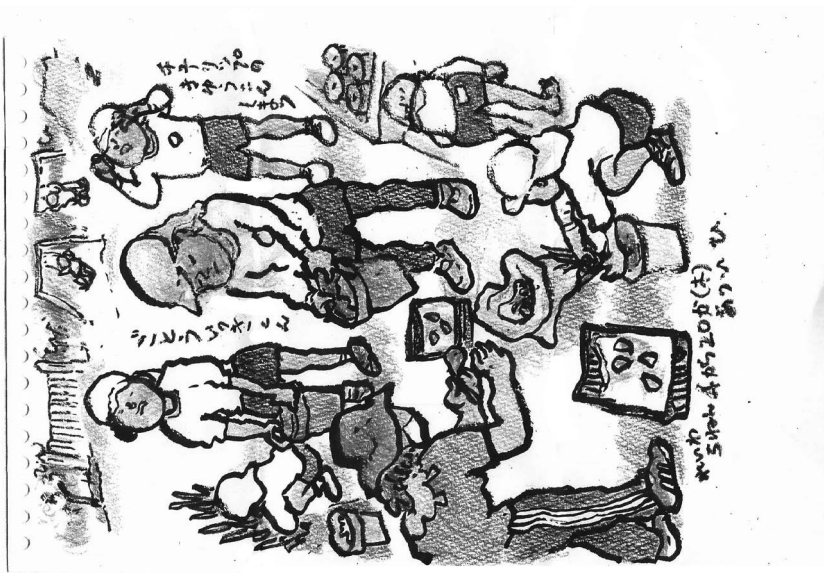
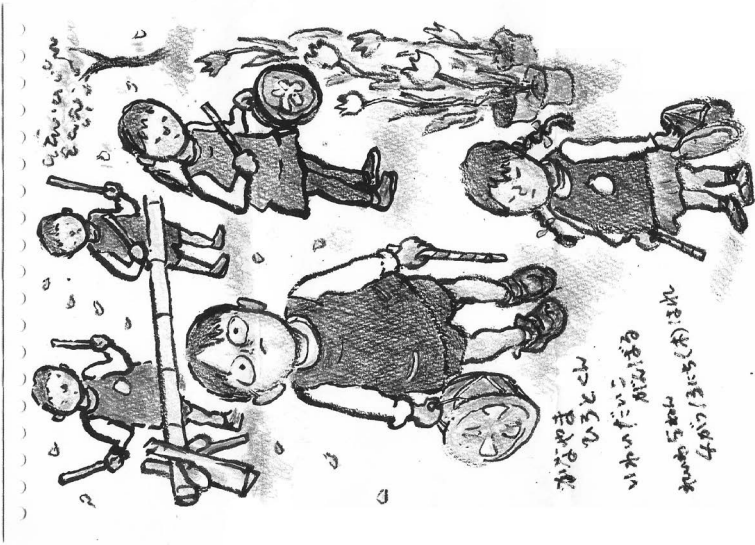
## 2 園長として「誕生日の絵」を描く

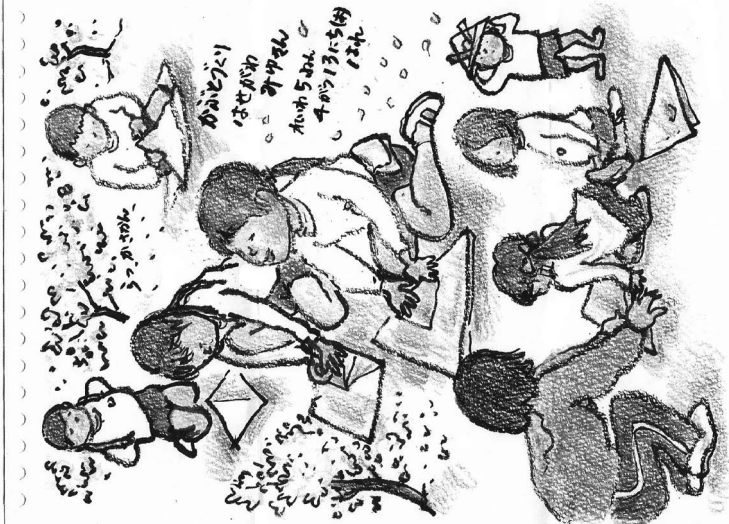
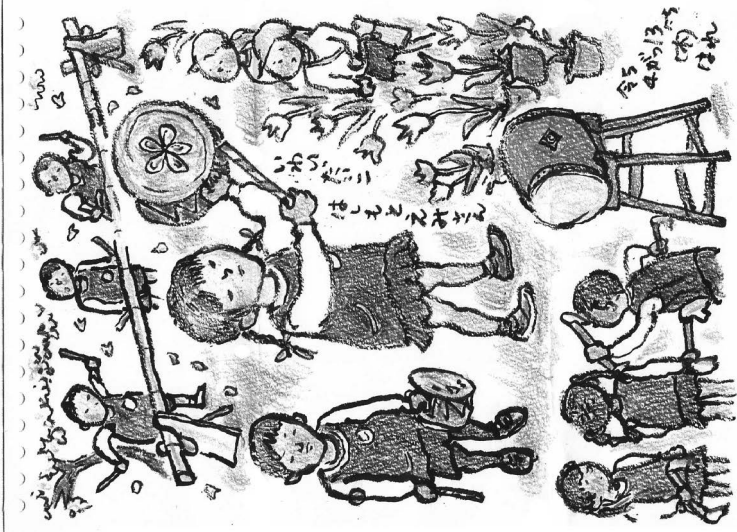
この20年以上、誕生日を迎える園児の姿を描き、その絵を誕生日祝いとして贈ってきた。美術教師、校長を務めて退職。その後に園長として赴任した幼稚園で、園長室で座っているだけでなく、子どもたちに何かをしてあげようと思ったのがきっかけだ。

今は週に2日位、幼稚園へ出かけて「誕生日」を観察して描く。いつまで続くか？



■ 令和5年3月「誕生児の絵」から





## 私の授業 これまでとこれから

入江 映子

---

### 美術教育

これまでの授業を振り返ってみますと、一番忘れられない実践は、帯広市の僻地の学校に勤務していた頃に社会科との合科学習で取り組んだ野焼きの授業です。全校生徒と一緒に埴輪や土器を作って校庭で焼きました。当時はインターネットもなく、野焼きの方法を焼物の産地の人や陶芸家の知人に尋ねたりして情報を収集しました。燃やす木などの準備も大変でしたが、地域の方にも協力していただきなんとか実施することができました。みんなで輪になってわくわくしながら火を見つめ、翌日に焼き上がった作品を取り出した時の子どもたちのいきいきとした表情が今でも印象に残っています。最近はオール電化の住宅が増えキャンプにでも行かない限り、普段火を見ることがないという生徒もいます。こんな時代だから、今こそこのような体験の機会が必要なのではないかと感じることもあります。私にとってはとても心に残る授業ですが、残念ながら様々な制約があるなかで今後実施することはないと思います。2002年の学習指導要領改訂は美術の授業のあり方の大きな転換期となったことは間違いありません。それまで年間70時間あった授業が35時間になりました。年間の課題の数を減らす必要があるので、何を残し、何を減らすか随分悩みました。また効率よく制作を進めるために授業の時間配分を十分練ることも重要でした。授業時間は減っても美術科の目標が達成できるように計画を立てなければなりません。今では週1時間の授業にすっかり慣れてしまいましたが、最初の数年間は戸惑うことも多く、これでいいのだろうかと考えることも多かったです。限られた時間の中でできるだけ美術の楽しさを味わってもらいたいという思いから、ゲストティーチャーをお招きし、地域の画家の方には「絵を描くことについて」、木の器作家の方には「木の話と器の制作工程について」、外国の方には「アジアの文化と美術について」などのお話をさせていただくこともありました。この時間はいつもの美術の時間とは違った空気が流れ、生徒たちはじっくりと講師の先生の話に耳を傾けており貴重な時間となりました。また、バスに乗って作品の実物が見られるように毎年、北海道立帯広美術館や中札内美術村などに行くこともありました。葛飾北斎展とチームラボが子どもたちに人気でした。いずれにしても、自分自

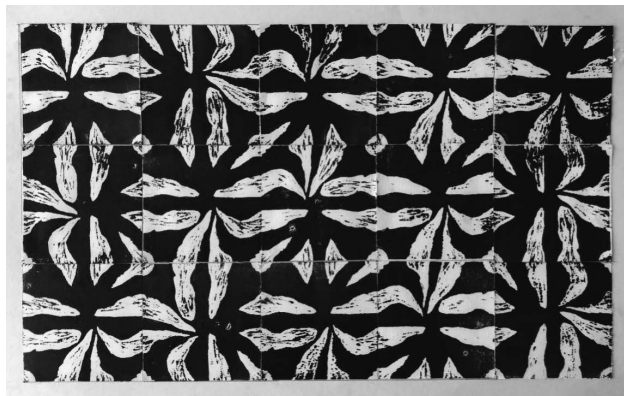
身が楽しいと思える授業でない生徒たちも楽しくはないでしょうし、私自身が授業の時間を楽しんでいます。

私たちの身の回りには美術に関わることがたくさんあるので、美術が好きな生徒もそうでない生徒も、生涯にわたって美術の授業を通して学んだことが生かされるよう、内容に偏りがないようにバランスよく取り入れていくようにしています。近年はGIGAスクール構想によって、デジタルツールの活用が盛んに行われるようになってきました。授業でどのように活用していくのか実践例も増えてきていますが、無理なく使いたい場面を利用をしようという気楽な気持ちでいます。今はグーグルスライドの共同編集機能を利用してクラスや学年ごとにスライドを作成し、生徒が自分の作品の画像をそのスライドの指定されたページに貼り付けて作品交流したりしています。また現在使用中の教科書や副教材にはQRコードが掲載され、より具体的にわかりやすい説明や資料をみることができ活用の場面も増えました。

さて、これからの授業についてですが、退職まで残すところ数年となり思考錯誤してきたこれまでの授業を総括し、最後まで気を抜かずに教材研究をしていかなければならないと考えています。毎時間の授業のねらいを明確にし、身につけさせたい力は何かということをしっかりおさえて丁寧な指導をしていくとともに、子どもたちが卒業するとき、また大人になったときに美術の授業は楽しかったと思えるように、日々頑張っていきたいです。

美術は、多様性を認めて受け入れる力、他を尊重する力、共感する力を育むことができるとも大切な教科です。社会の中で人々と互いに支え合っていくために必要な力です。また、他者だけではなく個々の生徒が自分の作品のよさを認められる機会があることは、自信につながります。自信を持って前向きに制作ができるような言葉をかけるよう心がけています。

また、美術の授業を通して、困難なことに向き合える力、目標に向かって準備を整え、計画を立て、制作方法を工夫し時間内に完成させる力、自分の想いや考えを伝える発信力、共同での制作では協調性



生徒作品（1年生） 広がる模様の世界より  
「海のかいぶつ」 10 cm×10 cm・15枚（木版）



などを身につけさせたいと考えています。

さらに、制作を通して、主題・素材・道具など自分で選択しなければならない場面を作ることも大切にしたいです。ただ、選択肢が多すぎると子どもは迷うので、ある程度の選択の幅を設定し、材料の特性や道具の効果的な使い方などを学ばせた上で選択させるようにしたいです。

### 課題

時代が急速に変化していく中で、子どもを取り巻く状況も変化しています。学校では、新型コロナウイルスの影響もあり、この3年間で様々な場面でのデジタル化が一気に加速しました。今年度より帯広市では不登校の生徒を対象に仮想空間の教室で学



生徒作品（3年生）  
今を生きる私へより「明るい未来」（水彩）



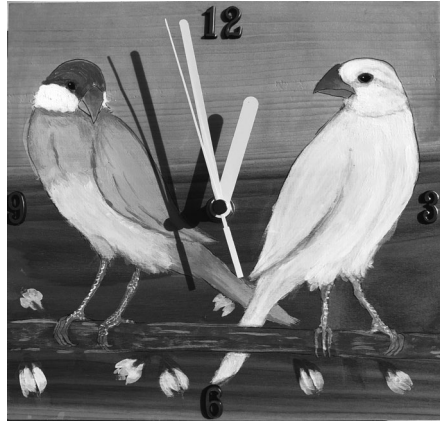
生徒作品（3年生）今を生きる私へより「私の過去と未来」（鉛筆・水彩）

ぶことによって、学校に出席したこととして扱われるようになりました。便利になることがたくさんある一方、失われていくものもあり、そのスピードは速まるばかりです。このような社会の中で、これから美術の授業内容も変化していくのですが、困難なことに向き合い、それを乗り越える体験ができる題材は残していきたいと思います。子どもの心

が動くような題材を設定することが今後の課題です。

### 沓掛校舎での学生時代の思い出

家から大学まで片道2時間ほどかかりましたので、通学に慣れるまでが大変でしたが、一回生のガイダンスでは他の学科の人との交流もあったおかげで、その後の学生生活が楽しいものとなりました。私は染織を専攻していました、植物染料を使った実習では自然の色の美しさに惹かれ、媒染剤を変えることによって

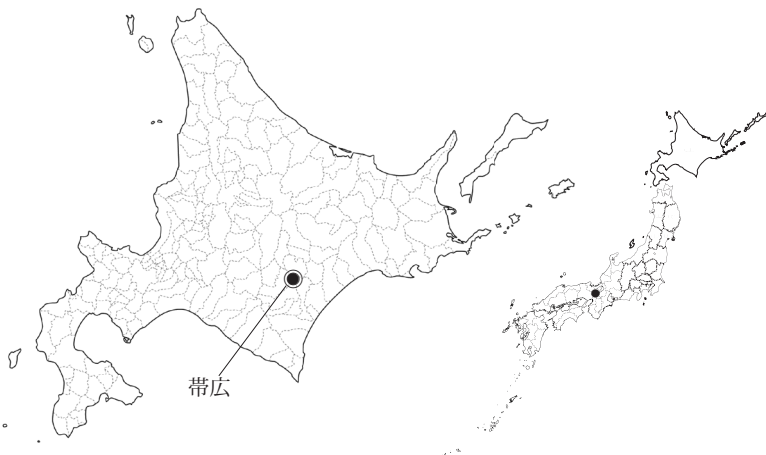


生徒作品（3年生） 自分へ贈る卒業記念品より  
「家の文鳥」（木材・アクリル絵の具）

同じ植物でも違った色に染まるのが大変興味深かったです。染織科では、京都の染織や繊維関係の企業（ワコールさんや川島織物さんなど）を見学しに行く機会もあり、これも大変勉強になりました。また写真実習やデッサン、版画実習など染織以外の専門的な分野のことなど、今思えばとてもたくさんのことを学ばせていただいたと思います。卒業して長い年月が経ちますが、学食の池の辺りで友人と話をしたり、芸祭の準備で忙しくしていたり、作品制作のことで頭がいっぱいになっていたりと学生時代のことをつい最近のことのように懐かしく思い出しています。

（北海道帯広市立緑園中学校 教諭）

### ■ 帯広 そして京都



## 私のこれまでとこれから

鴨井 陽香

### 大学での思い出

大学院から京芸に来て 2 年間、沓掛キャンパスで学んだ。成安造形大での学部時代から川をテーマに日本画の制作をしていた私は、国道 9 号沿いを流れる小畑川をモチーフに定め、上流までテクテクと写生に通っていた。描いている最中サルやイノシシに遭遇したり、蛍が飛んでいたことも。在学中はどちらかというとアルバイトに熱心で学生としてはあまり真面目な方ではなかったが、横田先生の教員採用試験対策講座には通いつめ、お陰様で試験に合格することができた。

### 箕面東高校での勤務

箕面東高校は多部制単位制普通科のクリエイティブスクール（後に全日制総合学科のエンパワメントスクールに改編）。I 部は 1～6 限、II 部は 3～8 限の時間割の中で、多彩な選択科目があることが特徴である。勉強が苦手だったり褒められた経験が乏しい生徒、発達に偏りのある生徒も多く、授業では

- ・全員完成できる課題設定
- ・できて嬉しい、達成感のある作品づくり
- ・授業内で全員に声をかけること

を意識し、制作を通して自己肯定感を高めることを目標にした。過去行った美術の授業課題は以下の通り。

美術 I 手のデッサン／立方体制作・デッサン／イラスト漢字／パッケージデザイン／スケッチブックのデザイン（色彩構成）／鳥獣人物戯画模写・うちわ制作／オリジナル和菓子を作る／卒業式立体ポスター

美術 II モダンテクニックとコラージュ／自己紹介ピクトグラム／校舎案内ピクトグラム／動物オブジェ／箔押しと浮世絵模写／篆刻／切り絵

その他、美術系選択科目として工芸入門と素描、エンパワ改編後は美術研究が開講されている。

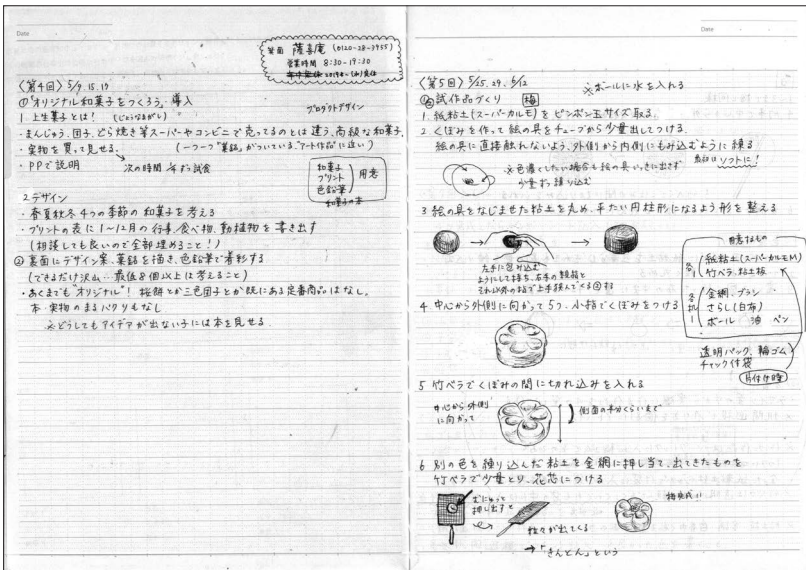


卒業式立休ポスター 大阪府立真面東高等学校

## 二度の産休・育休

2016年に第1子(長男)、2018年に第2子(長女)を出産した。生徒や先生方と日々コミュニケーションを取りながら一人教科でのびのび仕事をする毎日から一転、乳児相手のままならない育児の日々。子どもは可愛い、言葉は通じないしこちらの予定通りにいくことはほぼない。不安や焦りを紛らすために、隙間時間で教材作成や教材研究に勤しんだ。

育休後はフルタイムで職場復帰したが、以前のように好きなだけ仕事をするというわけにはいかない。業務内容の見直し(生徒の作品にコメントを記してから返却するのをやめたり…)とともに、当初は引継ぎ資料のつもりで作成していた「授業ノート」をつけることで、授業準備や指導をスムーズに進めることができた。また、2度目の育休復帰の折には夫が1年間の育休と2年間の短時間勤務を取得してくれた。



授業ノート



### 三島高校へ

2020年に三島高校へ異動となった。真面目で勉強熱心な生徒が多く、殆どが大学に進学する。伝統的に美術部の活動が盛んで全国大会に行くことも。また毎年1月末から2月初めにかけて、芸術祭という学校行事があり、高槻阪急百貨店で美術・書道の授業作品および美術部書道部作品を展示している。そこで、

- ・展示を前提とした作品制作（“映え”、運搬・展示のしやすさ、できるだけ毎年違うもの）
- ・言語活動の充実  
を意識して課題を設定することとした。

主な内容は

美術Ⅰ 新種の花（色彩演習）／油絵  
（抽象画、名画の模写）／木のスプーン／新商品お菓子のデザイン／ステンシル

美術Ⅱ 油絵（町の風景、自画像）／  
校舎案内ピクトグラム／箔押しと  
琳派オマージュ／オノマトペ立体

他、3年生の自由選択科目でデッサンや自由制作を行っている。



芸術祭美術展・書道展 DM



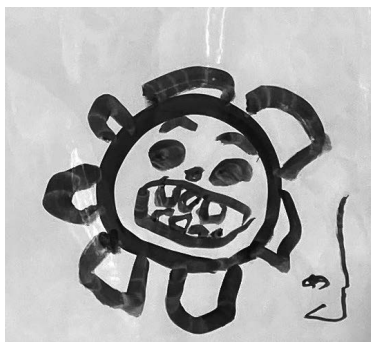
芸術祭美術展会場風景

コロナ禍真っ只中の学校生活で制約は多かったが、早まった GIGA スクール構想の恩恵で 2021 年に 1 人 1 台のタブレット端末支給と GoogleClassroom が導入され、芸術祭にかかる業務は大幅に効率化することができた。

### 三度目の産休・育休

三島高校で 2 年勤務した後、産休に入り 2022 年に第 3 子を出産、現在育休中である。ようやく育児を楽しめるようになってきた。この間、美術室に Wi-Fi が整備されたい。また、感染症対策も緩和される見通しである。今までできていなかったグループワークや、タブレット端末を使用した授業を考えているところである。

来年 4 月に復帰の予定だが、今度は夫婦ともにフルタイム勤務となる。不安しかない。これまで以上に業務の取捨選択が求められる。



長女(4歳)作「ライオン」



ペテラノドンを作る長男(6歳)

一方で、子どもが描く絵や工作に癒されることも。長男は暇をみつければ何かの工作をしているし、長女も描くのは好きなようだ。彼らは何の気負いもなく、息をするように造形活動をする。美術教育においては作品制作を通したより良き人格の形成や崇高な精神を求めがちで、それはそれで間違いではないのだが、子どもたちを見ていると単純に「あー楽しかった」でいいのかな、と考えることもある。実際、勉強の息抜きのような気持ちで授業を受けている生徒は少なくない。子どもの頃感じた「つくる喜び」を思い出す、そんな授業をしていけたら、と思う。

(大阪府立三島高等学校 教諭)

## 私の美術教育のこれまでこれから

七類 図南

---

((くろろろ、とぽぽっ))

↑この音を聴いて何を思い浮かべたでしょうか？

正体不明の鳥の鳴き声？

乱切りしたジャガイモをボウルから転がし、お湯の入った鍋に入れる音？

氷いっぱいグラスにウイスキーを入れた時に氷が溶けて崩れた時の音？

水道に取り付ける、ガス瞬間湯沸器が点火する時の音？

等々、先程私が不意に思いついた適当な擬音語だが、よく考えてみるといくつもの情景が思い浮かぶ。この1つの事柄からイメージを膨らませるということは美術の授業でとても大切にすべきことだと私は考えるようになった。

京都市立芸術大学に在学中、教職課程を学んでいた時は「とにかく生徒が楽しめるような授業を」ということを大切に授業を考えていた。卒業して昨年度、高校で美術の授業をする中で、自分が1番伝えたい楽しさとはなにかをより深く考えるようになった。

そこで意識して取り組んだことが2つある。それは「妄想」と「実験」だ。

まず、「妄想」とは何か、平たく言えば想像のことだ。ただ、想像より「妄想」という言葉の方が、より自分独自のイメージを膨らませ、楽しんでいる感じがするので敢えて「妄想」と呼んでいる。例えば冒頭にあった((くろろろ、とぽぽっ))という、おそらくこの世に存在しない擬音語も妄想していけば、誰ももなにかしらの様子が頭に浮かぶはずだ。この力は何を制作するのかを考える時にももちろん役に立つが、美術外でも人生の中でなにかを考える時には必ず役に立つ。柔軟な妄想力があれば、作品及び人生までもが豊かになるだろう。

次に「実験」とはとりあえず試してみるという心持ちで制作にあたらせることだ。どうしても授業内の制作は学校でやる事なので、成績や周りの目を気にして不安を感じ、

手が止まってしまう生徒が多い。「先生。〇〇と〇〇どっちで描くのがいいと思いますか?」  
とよく聞かれる。正直私はどっちでもいい。とにかく自分が良くなると思う方を選んで欲  
しい。そこで、自分が最終的に良くなりそうな方、難しそうな方をとりあえず選んで「実  
験」的にやってみて違ったらもう片方の案に変えよか、軌道修正手伝うよ、と伝えている。  
そうすると「とりあえず」「実験」という言葉でハードルがとても下がり、気楽に制作を  
進めることができる。

果てしない妄想力。実験的に挑戦して進むマインド。この2つが身に付けば、美術は  
何をしても楽しいのでは、と現在は思っている。

まだ1年しか教壇に立っていない私。どんどん自分の中の「美術の楽しさとは」は変  
わるかもしれないが、その時々で自分が信じる楽しさを生徒に伝えることだけは忘れない  
ようにしていきたい。今後の自分が楽しみである。

(京都芸術高等学校・京都外大西高等学校 講師)

